

[報告]

ふじさん献血：ブロックを超えた広域的献血推進活動イベント

山梨県赤十字血液センター

中村有希, 名執裕哉, 込山茉那美, 川野直樹, 白川雄也, 秋山進也,
深澤仁司, 土橋秀徳, 才間俊郎, 中村 弘, 田中 均, 杉田完爾

Mt. Fuji's blood donation campaign:
A model event for promoting blood donations across blocks of
regional blood centers

Yamanashi Red Cross Blood Center

Yuki Nakamura, Yuya Natori, Manami Komiyama, Naoki Kawano, Yuya Shirakawa,
Shinya Akiyama, Hitoshi Fukasawa, Hidenori Tsuchihashi, Toshiro Saima,
Hiroshi Nakamura, Hitoshi Tanaka and Kanji Sugita

抄 録

山梨県赤十字血液センターでは、別ブロックの静岡県赤十字血液センターと共同で2018年から「富士山の日」(2月23日)に「ふじさん献血」を実施している。両県にまたがる世界文化遺産の富士山を通じた広域的献血推進活動であり、通常の街頭献血との差別化を図ることで、独自性のある献血イベントになっている。「ふじさん献血」の献血受付け数の目標を、両県合算で223(ふじさん)人に設定しているが、2018年は220人と少し目標に届かなかったものの、2019年は226人、2020年は244人と目標を達成できた。県やブロックが異なっても、共通する魅力あるターゲット(山、谷、川、湖、寺院、神社、祭り、食物など)を見出すことができれば、ユニークな献血イベントを実施することは可能であり、献血の広域の実施や普及・啓発活動に有効であると考えられる。

Key words: blood donation campaign, symbol of donation, volunteer by the youth

【はじめに】

2013年6月にユネスコの世界文化遺産に登録された富士山は、日本一の標高とその美しい景観から日本を代表する名峰である。とくに、富士山を共有する山梨県と静岡県では各県の条例で2月23日を「富士山の日」に制定しており、富士山は両県民にとって特別な存在・象徴である。

関東甲信越ブロックに所属する山梨県赤十字血液センター(以下、山梨センター)と東海北陸ブ

ロックに所属する静岡県赤十字血液センター(以下、静岡センター)は、2018年から両県の共有シンボルである富士山を活かした広域的献血推進活動「ふじさん献血」を行っているので、3年間の活動実績を報告する。

【実施準備の概要】

1. 開催日

両県の条例で「富士山の日」に制定されている2

月23日を開催日に決定した。

2. 献血会場

両県に店舗のあるイオンモール（山梨会場はイオンモール甲府昭和，静岡会場はイオンモール富士宮）を会場に選定した。

3. 献血受付の目標者数

山梨センターでは献血バス2台，静岡センターでは献血バス1台を会場に配車し，両県合算で献血受付の目標者数を223（ふじさん）人に設定した。

4. 「オリジナルけんけつちゃん」

富士山をモチーフにした「オリジナルけんけつちゃん」を作成し，ポスターや献血会場で活用することを決定した。

5. 事前広報活動

山梨センターと静岡センターとの共同開催を記載したポスター（図1）を作成し，山梨センターでは高等学校39校，専門学校5校，大学8校を含む献血協力団体に配布した。

6. 献血ボランティア

若年層献血者の増加を目標に掲げ，同年代の若

年層に献血活動のボランティアを依頼した。山梨県立甲府南高等学校と静岡県立富士宮東高等学校等を通じて高校生ボランティアを，学生献血推進協議会を通じて大学生ボランティアを依頼した。

7. オリジナル処遇品

山梨会場では静岡県の名産品（1年目は「富士宮やきそば」，2年目と3年目は「静岡おでん」）を，静岡会場では山梨県の名産品（3年とも「あばれほうとう」）を提供することを決定した。

8. 調印式

2018年2月23日，山梨センターと静岡センター両所長が山梨センターで「ふじさん献血」の調印式を行なった（図2A）。その様子は複数のメディア（ラジオとテレビ4社）で報道された（図2B）。

【実施当日の概要と結果】

1. 献血実施日

2018年は調印式（2月23日）の翌々日に，2019年と2020年は2月23日に実施した。



日時，会場，主催，処遇品に加え，献血受付目標数と新たに「オリジナルけんけつちゃん」を掲載した。

図1 ポスターの作成



A. 調印式の様子

2018年2月23日，山梨センターと静岡センターの両所長が調印式した。

B. テレビ山梨の報道

調印式は複数のメディアで報道された。

図2 調印式

2. 撮影会の開催

山梨会場では「けんけつちゃん」に加えて富士の国やまなし観光キャラバン隊長「武田菱丸」²⁾、静岡会場では富士宮市キャラクター「さくやちゃん」³⁾の撮影会(図3A)を行った。撮影した様子をSNSに投稿した方には記念品を配布し、「ふじさん献血」の情報が来場者からリアルタイムで伝えられた。

3. カウントボードの設置

献血受付の目標者数とその時点における献血受付済み者数をリアルタイムに掲示したカウントボードを両献血会場の2カ所に設置した(図3B)。会場来場者の注目を集めると同時に、センター職員と学生ボランティアの目標数達成へのモチベーションアップに繋がった(図3C)。

4. 学生ボランティアの貢献

両県とも毎年20名を超える学生ボランティアが参加した。依頼内容は、同世代を中心とする献血呼びかけ、献血者の安全を図るための誘導、撮

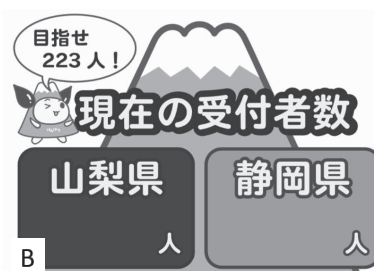
影会の補助、受付者数の確認とカウントボードの記載更新、献血協力者へのアンケート依頼とその回収などであった。学生ボランティアの協力は円滑な献血者の受入れのために非常に有用であった。学生ボランティアからは献血活動の大切さを実感し、活動の達成感が生まれたとの感想が多く寄せられた。献血終了後には献血バス前で記念写真を撮影した(図3D)。

5. 献血受付者数

2018年の献血受付者数は220人(山梨会場137人)でわずかに目標に届かなかった。しかし、2019年は226人(山梨会場142人)、2020年は244人(山梨会場157人)と増加し、2年連続で目標受付数を達成した。

6. 献血の広報

2018年の山梨会場では、キャンペーン当日の取材がテレビ、ラジオ、新聞を含む6社で行われ、過去に実施された献血キャンペーン中で最も報道数が多かった。報道機関の協力は、両県民に広く



A. 撮影会

山梨会場では「けんけつちゃん」と「武田菱丸」と一緒に記念撮影会が行われた。

B. カウントボード

献血受付の目標者数の下に、両県における現在の受付者数を記載した。

C. 献血の呼びかけ

献血受付者数の変化を経時的にボードに記載し、さらなる献血の呼びかけを行った。

D. 活動終了後の記念撮影

献血バス前で学生ボランティアと記念写真を撮影した。

図3 活動状況

表1 山梨センターにおける「ふじさん献血」と街頭献血(年末・年始)との比較(2018-2020年)

	ふじさん献血	街頭献血(年末・年始)
総数	436人(2稼働×3回)	482人(1稼働×6回)
10代	30人(6.9%)	26人(5.4%)
20代	54人(12.4%)	71人(14.7%)
10代・20代	84人(19.3%)	97人(20.1%)
初回	61人(14.0%)	51人(10.6%)

本献血キャンペーンを周知し実際に献血協力してもらう上できわめて有用であった。

7. 「ふじさん献血」と年末・年始の街頭献血との比較(表1)

山梨会場における「ふじさん献血」(計3回)の献血受付者総数は436人(平均145.3人/回)、10代・20代合算数は84人(19.3%)、初回献血数は61人(14.0%)であった。一方、同店舗で行われた年末・年始の街頭献血(計6回)における献血受付者総数は482人(2018年78人/78人、2019年79人/82人、2020年85人/80人、平均80.3人/回)、10代・20代合算は97人(20.1%)、初回献血数は51人(10.6%)であった。1回当たりの平均献血受付者数は「ふじさん献血」が街頭献血の約1.8倍で有意に多かった(Mann-Whitney U検定で $p=0.0004$)。しかし、10代・20代献血率は共に約20%で差はなく、初回献血率も統計学的な有意差は認められなかった(カイ二乗検定で $p=0.115$)。

【考 察】

「ふじさん献血」は県やブロックセンターが異な

っていても、共通するシンボルを通じて広域な献血推進活動が可能であることを示すことができたモデルイベントである。両県民に広く献血への理解と協力を求め、献血運動の一層の推進を図ることについては、2年連続で目標の受付者数を達成できたことから一定以上の成果が得られたと考えている。2020年は新型コロナウイルス感染者が日本で増加し始めた頃に実施され、献血会場の店舗への顧客数はかなり減少していたが、献血受付者数はむしろ増加しており、「ふじさん献血」が県民に認知されてきていると考えられた。一方、本キャンペーンにおける若年層献血率の増加は達成されておらず、今後は同年代への広報を徹底していく予定である。

県やブロックの枠を超えて共有できる魅力あるターゲット(山河、湖沼、神社・仏閣、祭典、特産物など)を見出すことができれば、広域的献血推進活動を実施することは可能であり、献血の普及・啓発に非常に有効であると考えられる。

謝辞:「ふじさん献血」に多大なるご協力をいただいている静岡県赤十字血液センターの関係各位に深謝する。

本報告の概要は、第43回日本血液事業学会総会(仙台市、2019年)で発表した。

文 献

- 1) 厚生労働省「年代別献血者数と献血量の推移」<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000063233.html>, (参照2020-01-04)
- 2) 公益社団法人やまなし観光推進機構「富士の国やまなし観光キャラバン隊長」武田菱丸<https://www.>

[yamanashi-kankou.jp/kankou/event/takeda-hishimaru.html](https://www.yamanashi-kankou.jp/kankou/event/takeda-hishimaru.html), (参照2020-01-04)

- 3) 富士宮市「富士宮さくやちゃん」http://www.city.fujinomiya.lg.jp/municipal_government/charaprof.html, (参照2020-01-04)